

W34b 全天X線監視装置 MAXI 地上データ処理システムの開発I

－ 地上データ処理システムの開発状況 －

佐藤 俊宏、小笠原 直進、中村 一尋、根来 均 (日本大学)、富田 洋、倉又 尚之、上野 史郎 (JAXA/ TKSC)、小浜 光洋 (理化学研究所)、中本 啓之、堀田 和宏、平尾 弘 (SEC)

現在、2008年から稼働予定の全天X線監視装置 MAXI の地上データ処理装置の開発を進めており、その現状を報告する。MAXI のデータはすべて JAXA/TKSC にある OCS (JEM 運用管制システム) を経由して提供され、それらを我々が設計開発したデータ処理システムで処理する。同システムでは、リアルタイムにハードウェアの状況やX線天体の変動を監視する QL (Quick-Look) システムに必要なデータを配信したり、リレーショナルデータベースに格納するなどの機能を持つ。今年度、これらに GUI を実装させ、データの取得状況や回線の接続状況などを容易に監視できるようにした。また、その新たに実装した部分も含め、現在、システムの動作試験を行なっている。

講演では、上記のシステムの試験状況を始め、最終的なデータ構成が決定した軌上でのデータ処理装置 (DP) や、JAXA/TKSC でのデータ処理システムの開発状況を含む、地上処理システム全体の開発状況についても報告する。また、本システムの一部である、データの格納方法やその性能評価の詳細については小笠原らが (同開発 II)、突発天体等の発見のための QL システムの開発については中村らが (同開発 III) それぞれ発表を行なう。